

2022 年 1 月 31 日

大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター

第 3 回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」

単純集計の結果報告

このたびは弊センターによる第 2 回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。おかげさまで 353 件の回答をいただくことができました。

2020 年初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大とその防止措置によって、皆さまの法務には様々な影響が生じていることと思います。私たち大正大学地域構想研究所・BSR 推進センターでは、2020 年 5 月と 12 月に「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」を実施し、517 名（5 月）、304 名（12 月）と多くの方にご回答をいただきました。その結果については、研究所ホームページ（下記参照）に掲載しておりますが、みなさまが感染防止に最大限の努力をされ、檀信徒とのコミュニケーションをはかられていることが分かりました。一方で、葬送儀礼への影響は大きく、寺院運営や今後の教化活動に不安を抱かれている方も少なくありませんでした。

第 1 回調査結果 <https://chikouken.org/topics/news/10879/>

第 2 回調査結果 <https://chikouken.org/topics/news/11610/>

今回の第 3 回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」では、現在の葬送儀礼の状況、また、この一年間での定期法要の実施状況等についてご回答いただき、新型コロナウイルス感染拡大以前や 1 年前の状況と比較した葬送文化の変化を把握することを目的とし、その結果をもとに寺院全体で今後どうあるべきかを検討していきたいと考えて実施いたしました。

本報告では、回答を単純集計した結果のほか、自由記述に関しては、弊センターにおいてある程度、分類をいたしましたが、幅広い回答をいただきましたので、不十分な分類となっておりますこと、ご了承ください。問 20 など自由記述項目の回答は、出来る限り、掲載させていただきました。感染拡大により僧侶同士の交流も限られている中、意見交換の場としてもご覧いただければと思います。

今後、地域別の比較や過去の調査との回答比較などを行い、ご報告させていただきます。報告については、月刊『地域寺院』や大正大学地域構想研究所ホームページ、報告会などを予定しております。

2022 年中に第 4 回の調査を実施したいと考えております（時期未定）。もちろん回答は任意となりますが、その際はご協力いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

なお、本研究は JSPS 科研費 JP20K20336 の助成を受けたものです。

目 次

調査概要・回答者属性	…3 頁
(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	
(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	…4 頁
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどうな状況ですか。	
(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。	
(5) (4) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…5 頁
(6) 2021 年のお盆参り（棚経）はどうにおこないましたか。	
(7) (6) で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…6 頁
(8) 今年（2021 年）は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要（彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など）をどのようにおこないましたか。	
(9) (8) で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…7 頁
(10) 2021 年 12 月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。	
(11) (10) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…8 頁
(12) 2021 年 12 月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。	
(13) (12) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…9 頁
(14) 2021 年 12 月現在、葬儀や法事の際に、特別に取っている対応はありますか。	…10 頁
(15) 今年（2021 年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。	
(16) 今年（2021 年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上のどのような相談を受けていますか。	…11 頁
(17) 2021 年 12 月現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関して気になっていることや心配なことを教えてください。	…12 頁
(18) これから情報発信の手段として以下のものを活用したいと思いますか。	…13 頁
(19) 感染拡大以後、寺院として新しくはじめたことがありましたら、教えてください	…14 頁
(20) ご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。	…16 頁

○調査概要

- ・方法：インターネットによる WEB アンケート

アンケートページアドレス：<https://forms.gle/q9Md2K1VbL1jZ85X8>

- ・調査期間：2021年12月1日（水）※～12月22日（水）

（※大正大学地域構想研究所ホームページへの掲載、メールでの調査協力送付の日）

- ・有効回答数：353名

362件の回答の内、メールアドレスの重複が8件（その内3回の重複が1件）あった。

それぞれ回答日時の新しいものを採用し、古いものを削除した。

自由記載欄は、何度か入力して失敗した可能性があると思われるので、全ての回答を含めた。

○回答者属性

- ・所属宗派

宗派	回答数
浄土宗（各派）	136
浄土真宗（各派）	77
真言系（各派）	41
曹洞宗	35
日蓮宗	23
天台宗	12
臨済宗（各派）	11
黄檗宗	8
時宗	4
その他	6
合計	353

- ・寺院の所在地

北海道	10	東京都	55	滋賀県	8	香川県	7
青森県	5	神奈川県	32	京都府	13	愛媛県	2
岩手県	3	新潟県	4	大阪府	17	高知県	2
宮城県	7	富山県	4	兵庫県	12	福岡県	12
秋田県	4	石川県	3	奈良県	6	佐賀県	3
山形県	8	福井県	4	和歌山県	1	長崎県	5
福島県	6	山梨県	4	鳥取県	4	熊本県	1
茨城県	5	長野県	6	島根県	3	大分県	4
栃木県	1	岐阜県	3	岡山県	0	宮崎県	1
群馬県	3	静岡県	24	広島県	7	鹿児島県	3
埼玉県	17	愛知県	14	山口県	3	沖縄県	0
千葉県	12	三重県	5	徳島県	0	合計	353

- ・立場

立場	回答数
住職	235
副住職	85
寺庭（坊守）	16
その他	17
合計	353

- ・年齢

年代	回答数
20代	13
30代	66
40代	139
50代	84
60代	40
70代	11
80代以上	0
合計	353

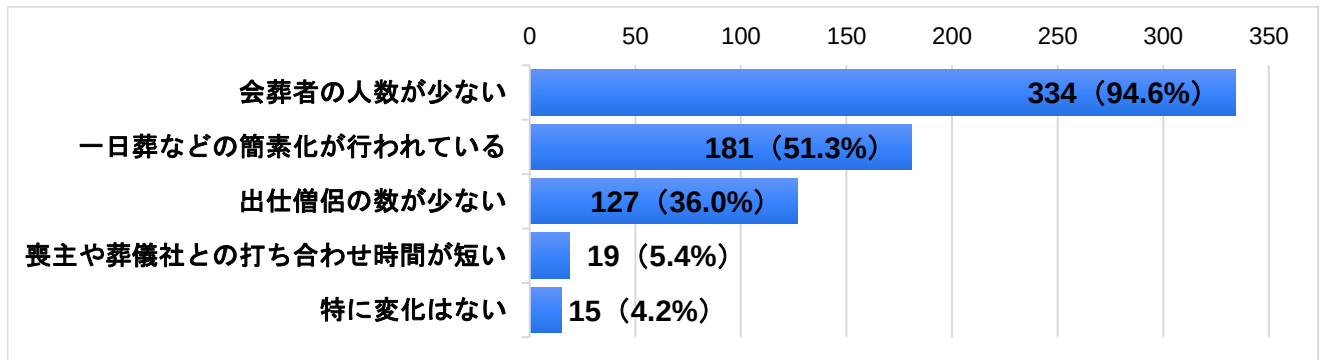
- ・性別

性別	回答数
男性	325
女性	27
その他	1
合計	353

- ・調査協力回数

調査協力回数	回答数
第1回に回答	45
第2回に回答	19
第1回・第2回ともに回答	160
今回がはじめて	67
わからない	62
合計	353

(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。(複数回答可)



その他(自由記述)の主なもの

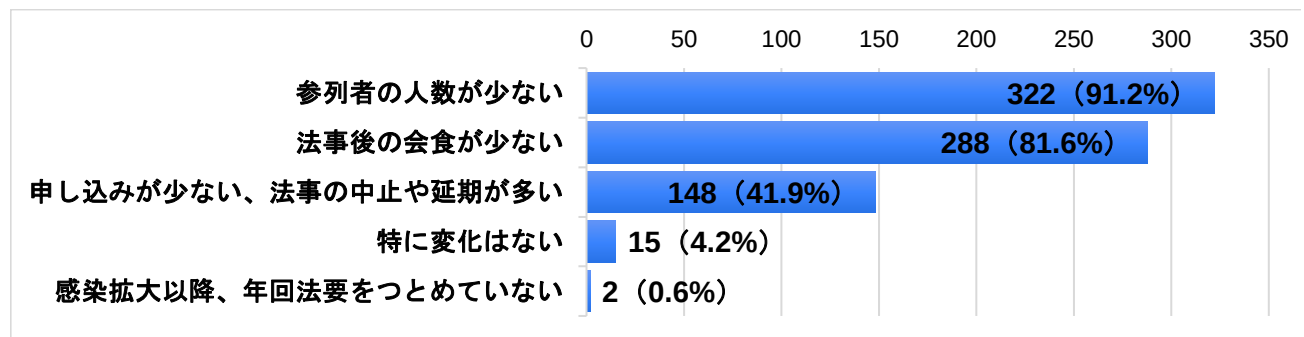
◇会食(通夜ぶるまい・精進落とし)がなくなった(5件)

・会食がなく、お弁当配布がスタンダードになってきた。

◇以前の状態に戻りつつある(4件)

・12月下旬の現時点で言えば人数は元に戻りつつあり、お通夜も再開しつつあります。

(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。(複数回答可)



その他(自由記述)の主なもの

◇以前の状態に戻りつつある(6件)

・感染状況が厳しい時よりもご法事の数が増え、コロナ禍以前近くまで戻ってきています。

◇場所の変化(自宅から本堂)(3件)

・ご自宅でのご法事より、寺の本堂でのご法事が増えた。

◇その他

・オンラインによる法要が増えた。

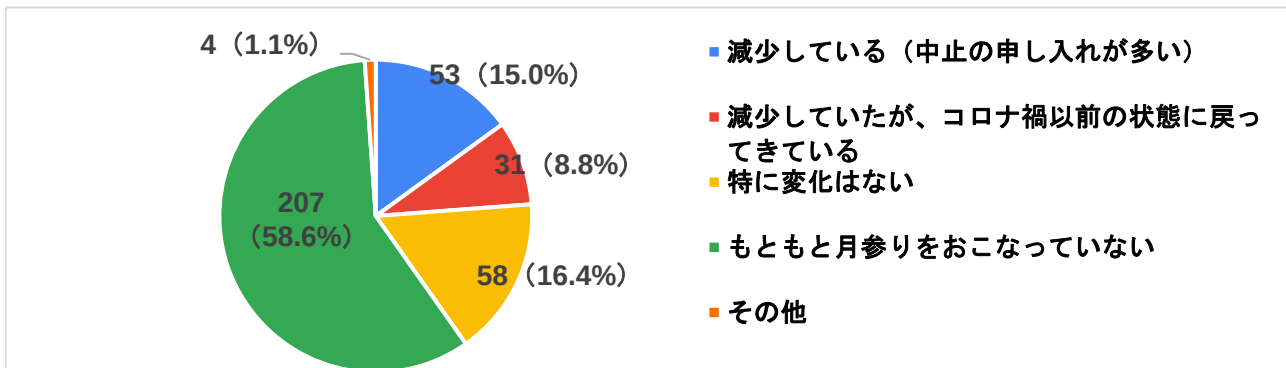
・お寺側から人数を制限している。

・複数の仏様の年回法要をまとめて行うことが増えた。

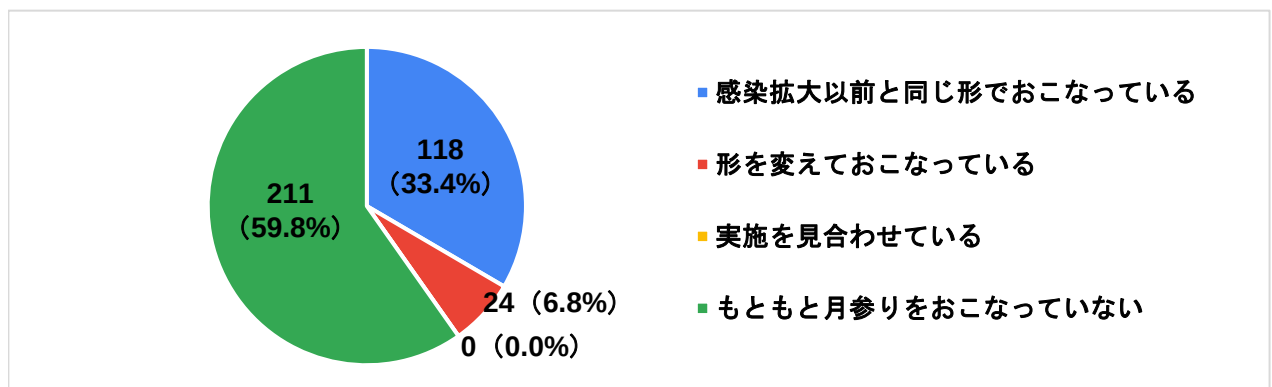
・遠方の家族の参加者がほとんどない

・卒塔婆の本数が減った。

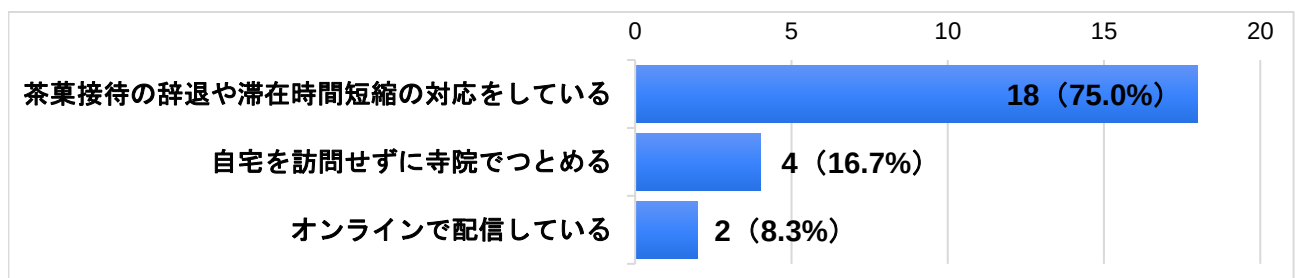
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。



(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。



(5) (4) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）（24 件の回答）



その他（自由記述）の主なもの

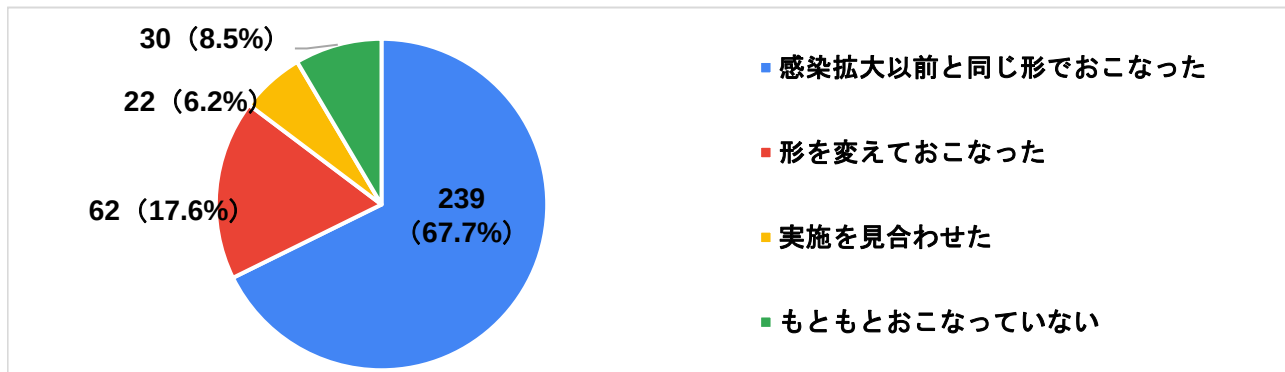
◇マスク着用、手指消毒（4 件）

- ・時間短縮、マスクや換気等の感染予防対策をした上で実施。

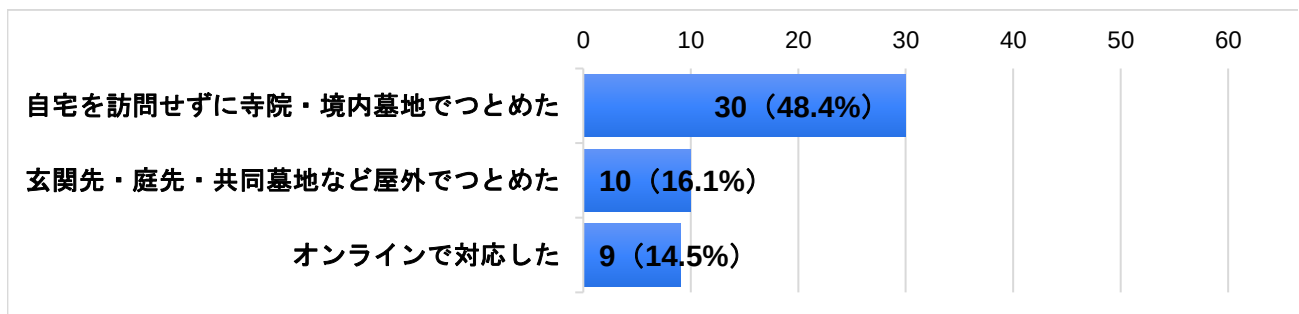
◇その他

- ・月替わりの御朱印を昨年 11 月より開始。
- ・形は変えずに、緊急事態宣言が出ている時はお休みにするなどしている。
- ・自宅を訪問せずに寺院でつとめる。
- ・オンラインで配信している。

(6) 2021 年のお盆参り（棚経）はどのようにおこないましたか。



(7) (6) で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。（複数回答可）（62 件の回答）



その他（自由記述）の主なもの

◇選択提示・希望確認（11 件）

- ・施主の希望を聞き、訪問出来ない家は、寺院にて供養したり、テレビ電話を利用したり色々工夫した。
- ・「本堂にて（1 時間置きに個別で）」、「自宅訪問」、「玄関先」の三種類を選択できるように返信用ハガキを添えて案内をし、実施。
- ・基本的には感染拡大以前と同じ形でおこなったが、希望者には外もしくは寺院で行った。

◇マスク着用・手指消毒（5 件）

- ・マスクをつけて読経した、アルコール除菌薬を携行した

◇滞在時間短縮・茶菓接待辞退（5 件）

- ・お邪魔している間は読経中もマスク着用。お茶などは事前連絡で辞退。

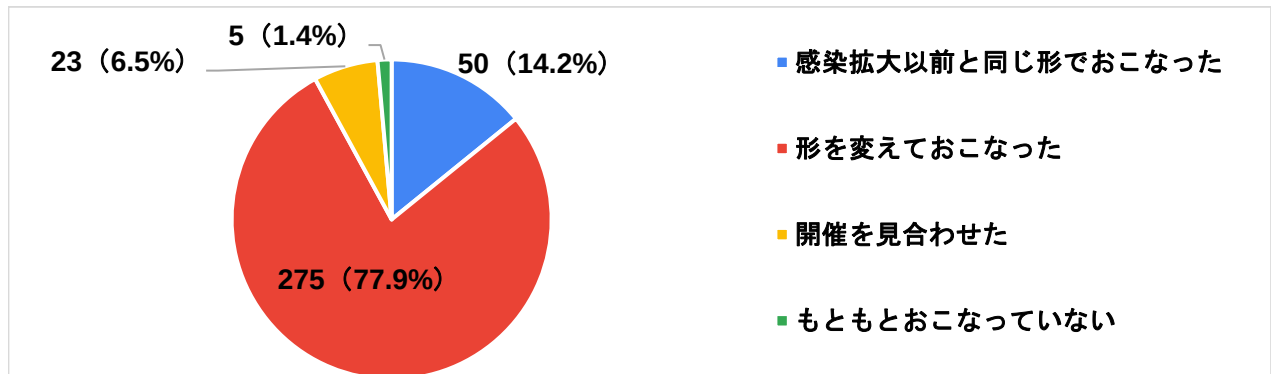
◇初盆限定（4 件）

- ・初盆の檀家のみに限定した。

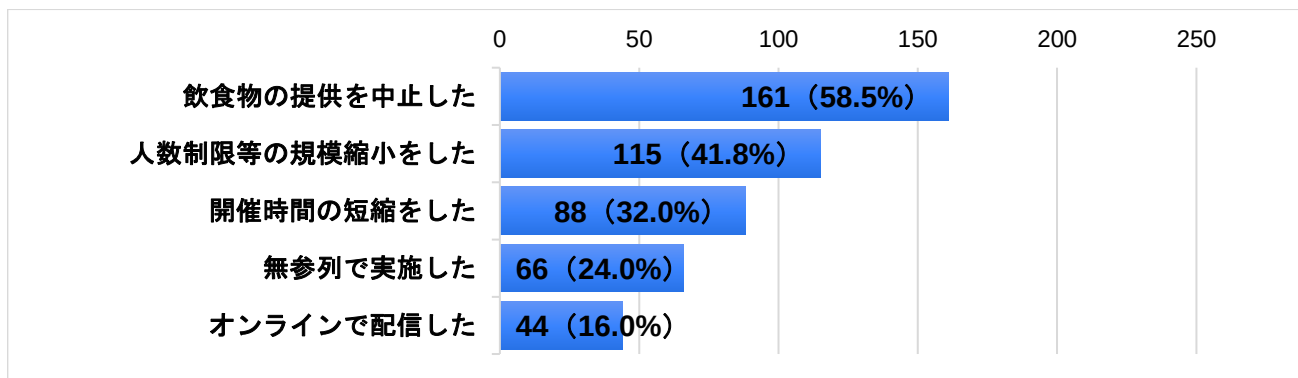
◇その他

- ・他県にいる檀家の棚経を中止し、県内の檀家のみ行った。
- ・8 割くらいは感染拡大以前と同じ形ですが、2 割くらいは玄関先や庭先（縁側）などから仏壇に向かって行っています。

(8) 今年(2021年)は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要(彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など)をどのようにおこないましたか。



(9) (8)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。(複数回答可)(275件の回答)



その他(自由記述)の主なもの

◇法要回数を増やす等で人数を分散(22件)

- ・町内ごとに時間をずらして参列頂いた。
- ・彼岸法要は中日のみしていましたが、入りから明けまで毎日11時から執り行い分散化をはかった。

◇屋外で参列・焼香、堂内入場制限(10件)

- ・檀信徒の皆様には堂内での着席を見合わせていただき、焼香のみの参拝で法要を行った。
- ・檀家総代のみで法要を勤め、その後一般檀信徒が焼香して、塔婆を持って墓地にお参りしてもらった。

◇出仕僧侶数を削減(5件)

- ・檀信徒はお呼びしたが、式衆の方々を呼ばず、住職のみで行なった。

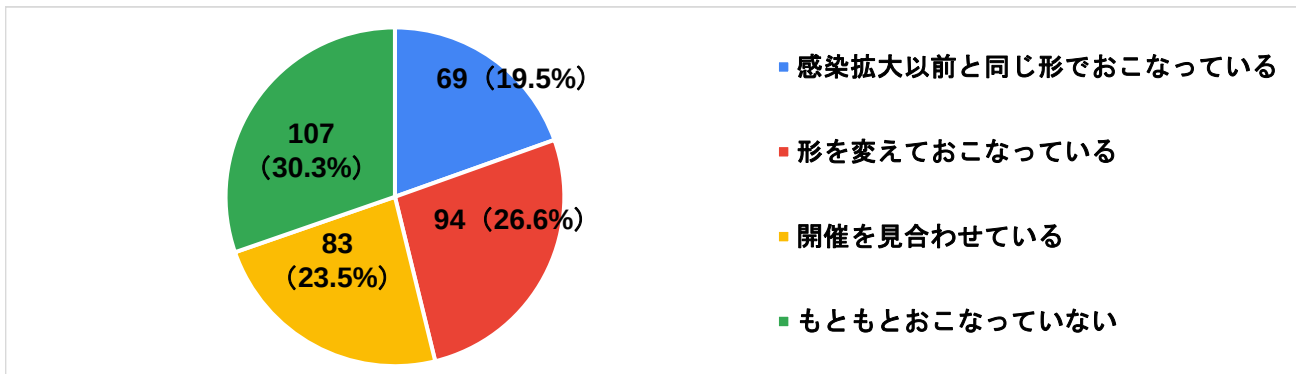
◇オンライン配信併用(3件)

- ・例年通りに勤修するとともに、オンライン配信も行い、分散させた。

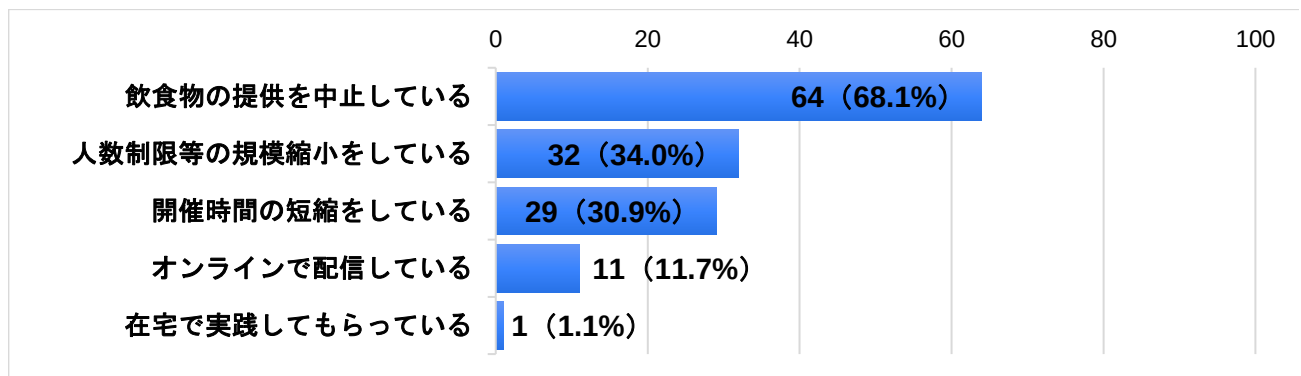
◇その他

- ・おてらマルシェを同時開催してお焼香のち境内でおくつろぎいただいています。
- ・落語や、参加型の儀式(数珠回し)などを控え、法話・法要のみのシンプルな形でつとめた。

(10) 2021年12月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。



(11) (10) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (94件の回答)



その他（自由記述）の主なもの

◇オンライン（4件）

- ・オンラインは一方通行の配信ではなく Zoom を使い双方向となるよう必ずコミュニケーションを一人ひとりと取りながら行っています。
- ・法話会については、zoom と寺参加とのハイブリッド開催。

◇感染対策（3件）

- ・手指の消毒、体温測定、換気など感染予防への注意をできるだけ強調しながら取り組んでいる。

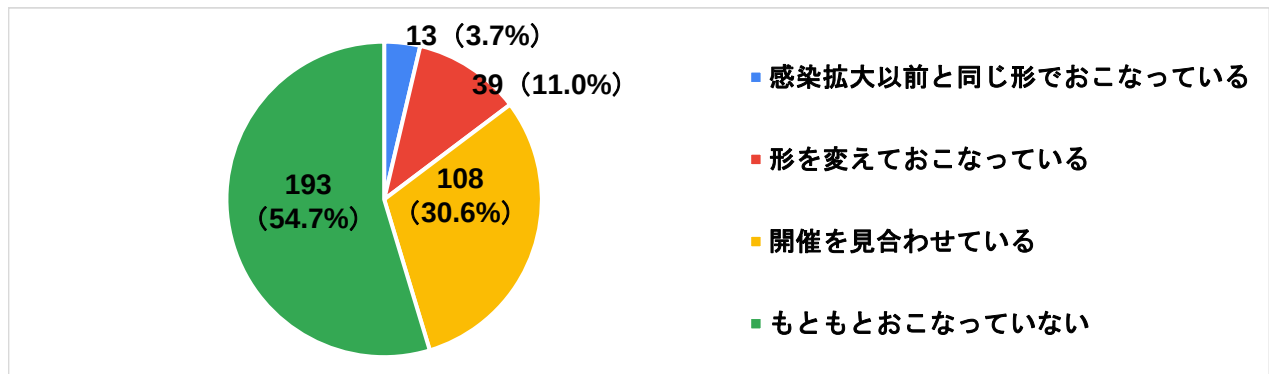
◇感染状況に合わせて対応（3件）

- ・緊急事態宣言等が発令した場合のみ中止。

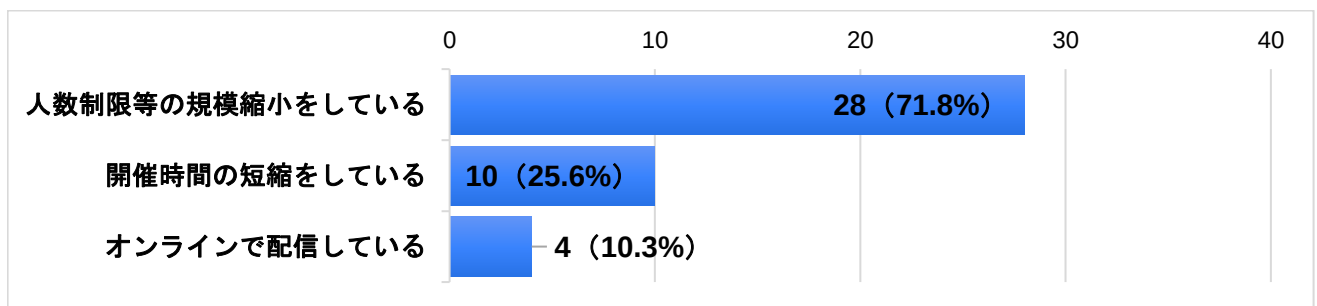
◇その他

- ・回数を増やし参詣者を分散化する。
- ・食事をテイクアウトしていただいた。

(12) 2021年12月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。



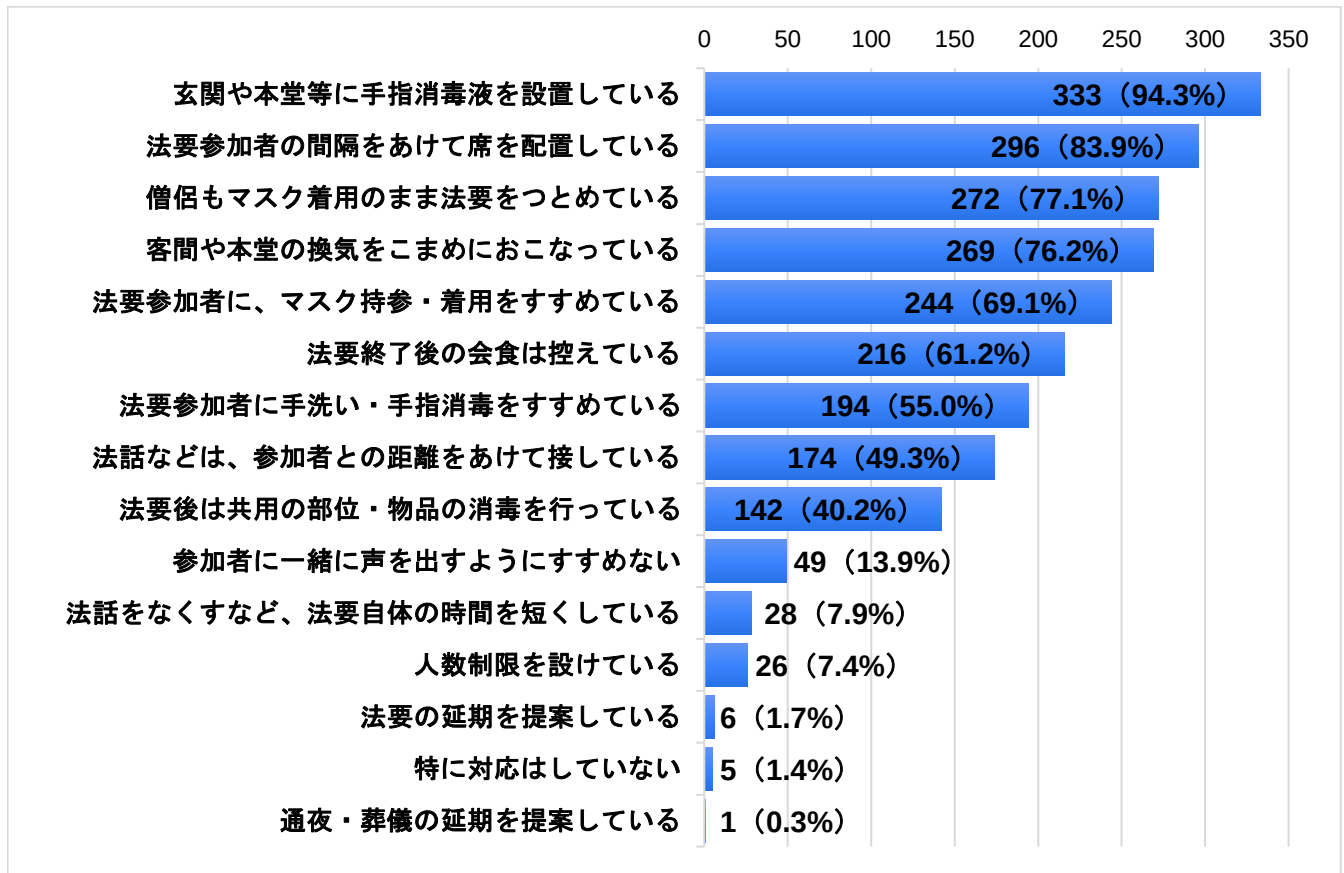
(13) (12) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (39件の回答)



その他（自由記述）

- ・花まつりで、人集めのイベントは中止した。
- ・野外で行えるイベントに力を入れるようにした。
- ・2020年は開催を見合わせたが、2021年は飲食の提供をやめる、人数を制限するなどして開催するようになった。
- ・場所を屋外にした。

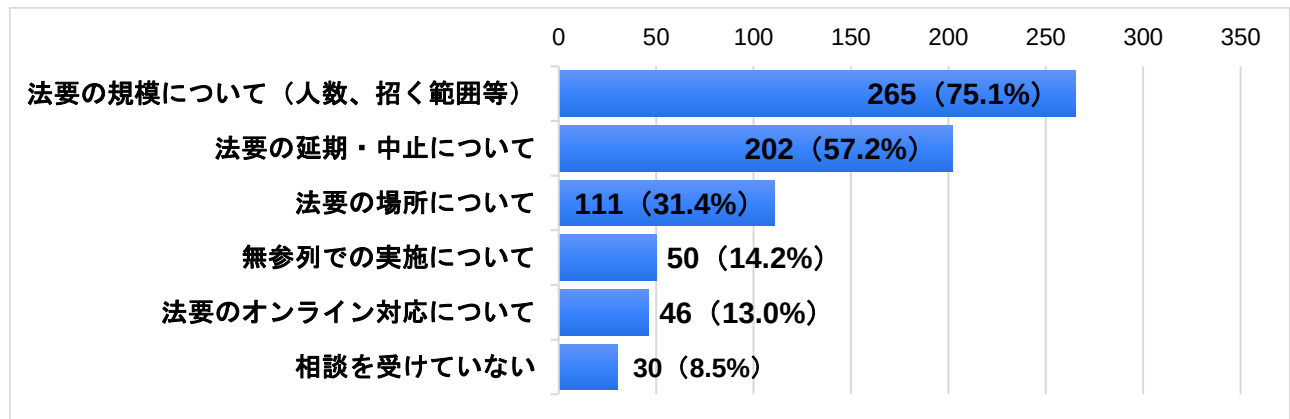
(14) 2021年12月現在、葬儀や法事の際に、特別に取っている対応はありますか。
(複数回答可)



その他（自由記述）

- ・本堂・客間・玄関・トイレなど共用場所は光触媒抗菌施工を行った。
- ・お念仏について、「マスクをされているので小さな声で結構ですのでお称えください」と伝えている。
- ・檀信徒控室のテーブルにパーテーションを設置。
- ・持ち帰り用の勤行本を用意している。
- ・僧侶はフェイスシールド、またはマウスシールド着用。
- ・当地では10月以降は感染者が殆どゼロ（月に数名いるかないか）のため会食も人数も戻りつつあります。
- ・お念仏の声は小さくて良いと言っている。
- ・遠方からお参りが少なくなることを考慮し、墓石チェックなどの対応可能な石材店を紹介する文書を周知した。お盆では例年行っているかき氷ができなかったので、お参りに心が向くことにつながればとお手紙線香ワークショップを開催した。

(15) 今年（2021 年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。（複数回答可）



その他（自由記述）の主なもの

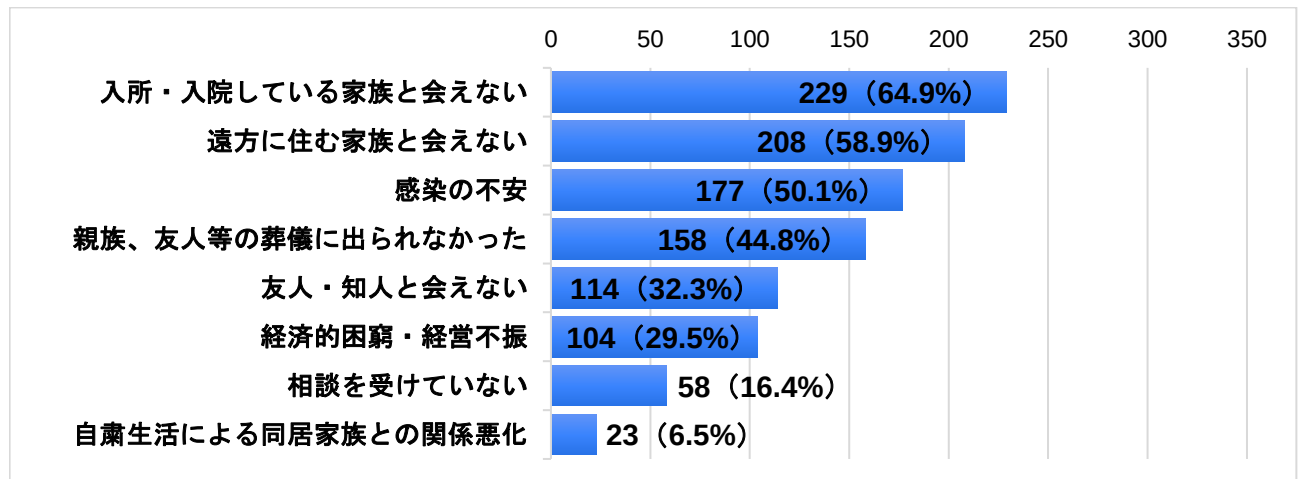
◇飲食関係（3 件）

- ・会食をどのような形で行うか。

◇その他

- ・オンライン法要も可能なのだが、檀信徒からの要望がほとんど無い。
- ・高齢の方を招くことを遠慮したりというご遺族の話を伺います。

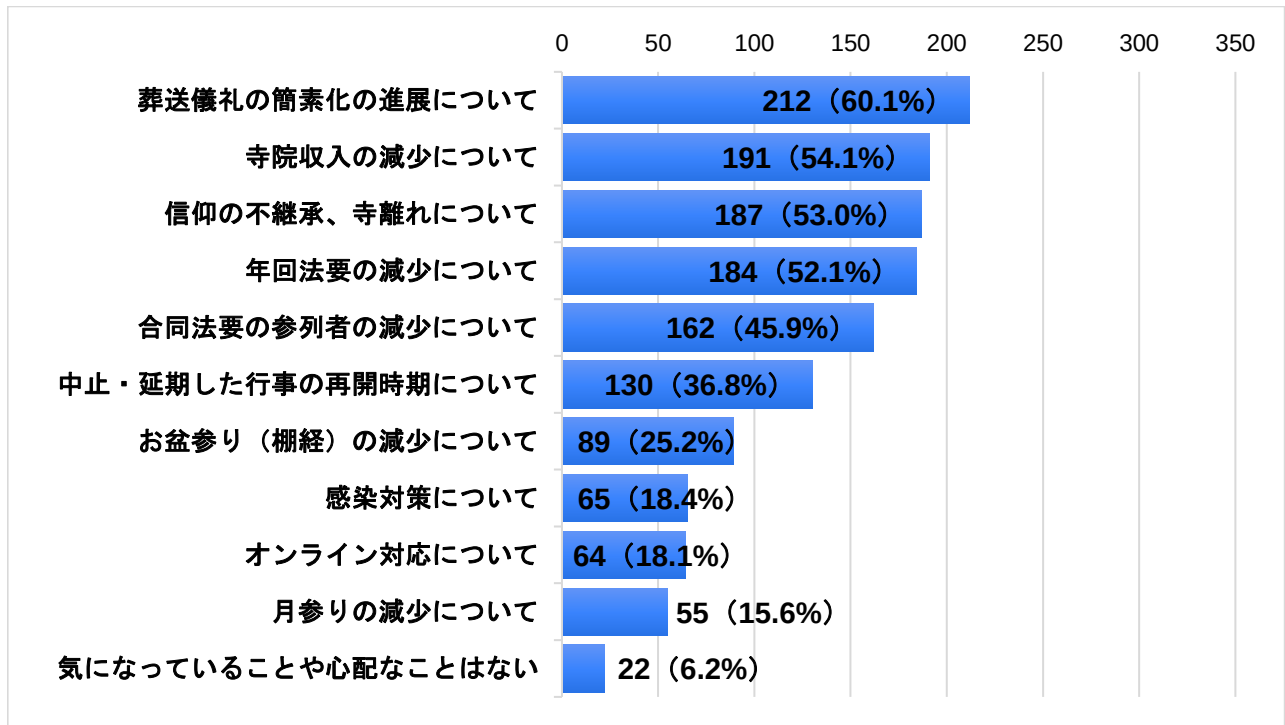
(16) 今年（2021 年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上のどのような相談を受けていますか。（複数回答可）



その他（自由記述）の主なもの

- ・鬱症状を訴える人が増えているように感じる。
- ・知り合いかと思っても声をかけづらい、誰とも一日話さない日が増えた。
- ・手術を受ける際の不安について、病院から電話で相談を受ける。
- ・家族の精神状態の悪化（うつ状態など）。
- ・感染者死亡した場合、葬儀の方法を事前に相談。

(17) 2021年12月現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関して気になっていることや心配なことを教えてください。(複数回答可)



その他（自由記述）の主なもの

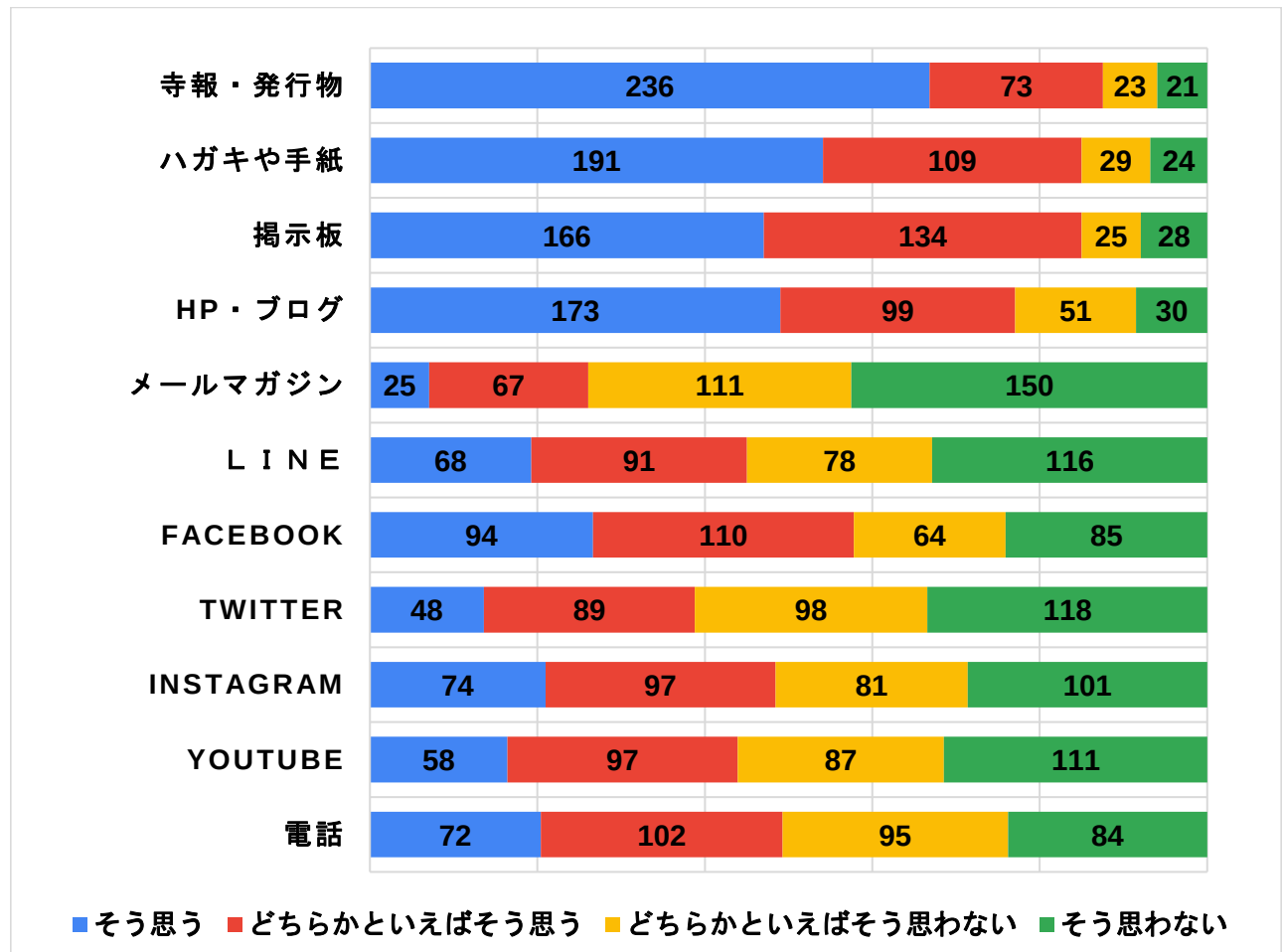
◇積極的にとらえる（4件）

- ・負の影響だけではなく、コロナによる新しい展開を大切にしたい。
- ・コロナ関係なく、過疎化の進む地域、教えが次世代に伝わりにくい状況があったので、コロナはある意味で真剣にこれらを考える契機になったと感じている。
- ・大きな時代の変化の最中にいることを感じます。不安というよりは、感染対策や時代の流れに対応しつつ、お寺の役割を考え、積極的に取り組んでいきます。
- ・もっと多角的な寺院の運用を早く進めるべく、高次元の事業が出来るよう、僧侶個人を鍛え上げる切欠が出来るのはいつになるのか？

◇その他

- ・住職一人で法務をしているため、自分が倒れた時が心配だ。
- ・現状を鑑みれば、法務・寺院運営だけを気にするのはおかしい。
- ・気にする人がいるのが気になっている。心配ないのでは。
- ・地域全体としてのコロナ対応の差からくる問題。
- ・気になることがないわけではないが、法要機会の減少・収入の減少・不継承などはコロナ以前からの問題と認識している。勢いがついた感があるが、やるべきことを実直にやっていくことを考えているので、改めて不安や心配をしているわけではない。
- ・これまでもあった変化（簡素化・小規模化）が一気に進んだ印象がある。墓じまいの相談も例年よりも多い。この後がどうなるのかが心配である。

(18) これから情報発信の手段として以下のものを活用したいと思いますか。



(19) 第2回の調査では、新型コロナウイルス感染拡大を、僧侶・寺院のありかたや仏教・法要の意義などを前向きにとらえなおす機会にしたいなどの意見がありました。これに関連して、感染拡大以後、寺院として新しくはじめたことがありましたら、教えてください（問14で尋ねたような消毒液の設置などの直接的な感染対策は除外してください）。（131件の回答）

◇オンライン対応（52件）

- ・法要のオンライン化、寺報をWEB版として毎月発行（これまでは紙媒体のみで年2回発行）。
- ・インスタグラムで境内や定例法要の様子を配信。
- ・念佛会の法話を毎回YouTubeに流すようになった。檀信徒のLINEグループを作った。
- ・カメラを3台使ったり、経本を映像で配信するなどオンライン法要の内容を充実させた。

◇地域活動、場作り（20件）

- ・地域活動への積極的参加や、お寺が活動の拠点となるように色々なイベント、行事の受け入れをしています。これまでに地元アーティストによるアート展、アコースティックLive、月一で周辺地域の主にお年寄りの集う場（行政の委託事業）を行っています。普段、お寺と縁のない方々ともお話をする機会があり、大変有意義な意見を頂戴します。中でもよく言われるのが「お寺は敷居が高くて入れない」という意見。私たちが思っている以上に一般の方々には近くて遠い場所というイメージでした。そして、その方々がその後に必ず言われるのが「お寺に来て、入れて、お寺の歴史を感じることができて本当によかったです。」という言葉です。寺離れが進む中、そうではなくお寺に行きたいと思っている人も沢山います。当山はそういった人たちに気軽にお参りいただける仕掛けをもっとしていくつもりです。実感があるから頑張れる。そんな感じです。
- ・お墓参りの際に、いつもは寺務所に寄らなかったお檀家が、立ち寄って話していくようになった。コロナ禍で一人世帯高齢者は話し相手がいなくなってしまったことが原因と思われるが、今後も気楽に立ち寄ってお話ししていける場所作りをしていきたい。
- ・地域の人たちの青空市を月一回開催している。その延長線で青空市を活用した子ども食堂を長期休暇中に実施している。
- ・お檀家様や地域の皆様から食料品を集めて、貧困家庭に配布する活動をはじめた。
- ・緊急事態宣言下にあっても、何かしらの形でお寺を開放することに努めている。檀信徒というよりは近所や市域の方に向けての形になっているが、何処にも行き場所がないとか居場所がないと感じている人へ居場所を提供できていると感じている。そうした集まりの中で相談を受けることもままあり、必要な活動と考えている。
- ・おてらおやつクラブでお下がりを提供→寺報で地道にお知らせ→檀信徒が結構協力的に「子供たちのために」とお供えをしてくださる→「こんな寺に変化するとは思わなかった」と檀信徒の反応もあった。
- ・「まちの保健室&介護者カフェ」、「寺子屋」などの居場所づくりを開始しました。コロナ禍であったことは、偶然ではありますが、「コロナ禍だからこそ」とその意味づけを強くし、また開催意義を感じる機会もあります。
- ・寺のフリースペースに子供たちが大勢来るようになったので、積極的にコミュニケーションをとるようにしている。

◇寺報・印刷物（10件）

- ・寺報などに同封する発行物を増やした（ネットを使えない檀家さんはやはり紙媒体が有効）。
- ・直接会って話す機会が減ったので、小冊子やパンフを作って送付している。

◇伝えていること、法話（7件）

- ・教義や宗学的な内容ではなく、教箋に、仏教を通した心の話や対人関係の話など、「生き方」「困難の乗り越え方」といった生活に関わる内容を盛り込むようになった。
- ・年回法要の際、「追善回向和讃」を唱え、改めてご供養の大切さを理解してもらうよう心掛けた。
- ・法務の中で、人との繋がりや、今ここにあることの貴重さ、有難さなどを伝える機会が増えた。またどうしても直面しなければならない課題、変化というものを考える機会ともなっている。

◇相談（6件）

- ・墓じまいや家の整理のことなどの相談や業者との打ち合わせなど高齢者や遠方の家族がなかなかできないことを代わりに行う。
- ・相談件数が少ない分、檀信徒の相談になるべく長く応じられるよう、話しやすい雰囲気をこころがけ、時間にゆとりがあることを伝えた。結果、直接的な相談内容以外にも、自身の近況や家庭親族の事情などの情報を多く得ることができた。
- ・以前よりも意識して、悩み相談、話し相手になるようにしている。

◇掲示板（6件）

- ・掲示板の掲載の数を増やした。月に2回とか2種類の言葉など。

◇その他

- ・葬儀式への参列者が減少したが、その分、僧職との接触できる時間が多くなった。会葬者の減少で読経時間を短めにしたのだが、それで増えた時間を使って、布教が出来るようになった。
- ・葬儀や年忌法要に関しては参列人数の減少により、以前よりもゆっくり時間をかけて密にご家族と接することでできていると感じる。例えば、法要のしお리를作って丁寧に説明したり、内陣を細かに案内したり、葬儀ではご家族と一緒に十善戒を唱え受戒に参加してもらったりなど。
- ・お寺に来ていただくのではなく、逆の発想で、ご信徒のお宅にこちらから伺うスタイルの提案。月参り（僧侶）ではなく、出開帳（仏さまが伺う）、という形を提案している。
- ・少人数での集まりにしたので、お念珠づくりなどの細かい指導が必要な活動ができた。
- ・葬儀の際、弔辞が皆無になったため、故人を偲ぶためこちらでスライドショーを作り映像を流している。
- ・檀信徒側がむしろコロナの影響以上に寺院に協力してくれている。
- ・洋蠟燭を和蠟燭に、線香や香木のグレードを上げた。儀式をより丁寧に実施するようにしている。
- ・今までの年回忌法要は「家」が施主となる法要だったため、「個人」や「友人」が施主となっていく法要を「夜の時間帯限定」で受け付けることにした。
- ・清掃業（ハウスクリーニング、遺品整理など）の会社を立ち上げた。

(20) ご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。(72件の回答)

※御礼等の記述は省略させていただきました。個人が特定できるような文言を一部修正しています。

◇あり方の再考

- ・コロナの影響から、世の中の流れが10年・20年早まったように感じる。これからは伝統にとらわれるのではなく、革新もまた必要なのだろう。ただし、宗教法人という性質上、他の企業に比べ変化を実施しにくいことは否めない。伝統を継承しながら、いかに世の中の革新に対応していくか、これからは住職の人格と力量が試されることになるだろう。「こうすることが当たり前」「こうしておけばよい」という甘えた考えでは、所属寺院を潰しかねないだろう。
- ・時代に合わせ、必要とされるお寺になることが求められている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大以降、寺院関係者は、自分が関わる寺院や自分自身の生活への不安や存続方法ばかりを考えているのではないか。現況下では、寺院のことは後回しにして考えるべきではないか。
- ・「つらい気持ちに目を向け、寄り添う」、それぞれのお寺の形でそれができれば世の中はより良い方向へ向かうと思います。私自身もできることを考えて前に進めればと思います。
- ・コロナ以前から個々の家庭の要望に沿うように対応しており、寺からコロナ対策をお願いすることは特にしていない。葬儀の簡略化に対しても家族の意向を一番にしているが、省略することで儀式的の部分がなくなってしまうのか、最低限省略できないお経をどこで補っていくか、簡略化することのメリットとデメリットを伝えて、家族とお寺が協働できるようなコミュニケーションがとれるように尽力している。簡略化＝悪ではなく、時代にあった新しい価値ある儀式となるように寺からも新しい形を提案していきたいと思う。
- ・正直、昨今のコロナ騒動は個人的にはあまり気にしておりません。国の対応と方針にも疑問を抱いています。メディアやマスコミなどが過大に不安を煽り、素直な人達がそれを鵜呑みにしている嘆かわしい事態だと思っています。ワクチンやPCR検査など怪しいことがなぜここまでまかり通っているのか不思議でなりません。いつまでも引き籠もっていると精神的にも免疫的にも良くないと思うので、お寺としてはなるべく集まってもらう機会を減らさず、仕方なく形を変えて行っていた行事も元の形に戻す様にしています。もちろん、世間に迎合して最低限の感染対策と呼ばれるものは実施しております。何より危険なのは、ウイルスでもなんでもなく、お寺から足が遠くの事だと思います。ただでさえ信仰が薄くなっていたところに、さらに拍車がかかっている状況だと思います。今までのお寺の行事等を大切に、今だからこそ信仰心やお寺の必要性を確認していただく事が大切かと思っています。
- ・僧侶は寺院に住んでいるから僧侶なのか？法衣を着ているから僧侶なのか？そうではない。生きざまが僧侶なのだという事が今こそ必要である。仏教、寺院、僧侶から羽目を外す事なく、その範疇を自在に往き来できるような活動か世間に認められるよう精進したいです。
- ・コロナのことは今までの在り方を見つめ直す機会と捉えたい。色々な手段を使って情報を発信する事も大事だが、こう言った時期だからこそ私たちが行ってきた修行を現代に生かして行きたいと思う。
- ・話を聞く場作りがあると痛切にかんじる。寺カフェミニ版をスタートしようとして出鼻を挫かれた。誰であれ居場所が必要、まずは手作りのパンとお茶でと考えていたのだが。地方はインフラ(喫茶店など)商業施設が少なく行き場がない。居場所の役割を寺院が担わなければならないと思う。

- ・お寺側自ら門を閉ざさないことが重要と考える。参列するしないは各門徒さんの問題で、感染対策や簡素化はもちろん検討すべきだが、ただ単に世間の風潮に流されるべきでは無いと思う。
- ・特に新しく始めたことはありませんが、(私は寺庭ですので住職から聞いた話として) 部内の総会や住職研修などが中止になり、晋山式や落慶なども減り、出かける用事が減った、晋山2年目の住職としては、時間の余裕ができたので、寺務の引き継ぎ、把握、自坊をどのように経営していくかゆっくり考える時間が取れて本当によかった、と言っています。そして盛大な晋山式、僧侶の葬儀のあとの会食など、今の時代には無駄だと思えることがなかったのは、今後の寺院のあり方を考える上でよかったのではないかと思います。拙寺は山間地の小寺で、市中の裕福な寺院と対等の付き合いをするのは経済的に苦しいです。その意味ではコロナの時はそういう付き合いもなくて助かりました。葬儀法事の簡略化の流れはこのコロナでますます進むと思いますが、今後どのように寺院経営をしていくか、常に住職と寺族で話し合いをしています。地域の過疎化が一番の問題ですが、寺院経営だけでなく地域の活動にも積極的に参加して地域自体を盛り上げていくことも必要だと住職が言っております。
- ・今までと異なる取り組みを余儀なくされたが、模索しながらも檀信徒と繋がる新たな可能性が生まれたのも事実であり、変革のためにはよい機会であったように思う。
- ・葬儀、年忌法要等の仏事はあくまでも寺院僧侶の役割の一つであって、今後はより今を生きる人々へ向けての取り組みが必要になると思います。コロナでそれが加速したととらえているので急いで対応したいと考えています。
- ・寺院の行事に関しては、飲食の中止以外には思ったほど影響はなかった。写経会やハス田の鑑賞などコロナ前より多くの人が集まった行事もあった。葬儀・法事の後のお齋(会食)も再開されつつある。儀礼の後の飲食(神道の直会:共食)は日本人にとって無意識的ではあるが重要な精神文化と思う。自坊でも徐々に再開していこうと思うが、これを機にもう少しその意味が意識されるように工夫したい。コロナ直前はインバウンドによる観光客の増加を期待していた神社仏閣もあったが、それは無くなってしまった。しかしむしろ日本人の信仰心が(多少であるが)深められたような気がする。祈りの真剣度が(これも多少ではあるが)強まったのではないか。お参りする姿からそのことが感じられた。東日本大震災の時もそうだったが、人知を超えたものごとに対する畏怖の念と神仏に対する素直な祈り、そのあたりの心情を、コロナ禍が収まった後でも、くみ取って宗教活動にうまく生かしていきたい。
- ・感染期間をチャンスに転じる良い機会です。今こそ仏教が輝ける時代だと思っています。あとは住職次第です。

◇檀信徒とのつながり、寺院運営について

- ・小さな宗教法人に対しての社会保障制度を政府が作って、寺院建物の維持費だけでも負担してほしいものだ。
- ・変わっていくものは仕方ないとして、残さなければいけないものは残すべく努力する。
- ・コロナ禍以前に過疎化・世代分離・寺離れ・法事葬儀の簡略化は進んでたので、その準備を10年間続けています。なのでコロナ禍で寺院が衰退した方が、本当に必要な寺院だけ残るので、私の寺にとってはコロナ禍でも問題ありません。この2年間で永代供養の設備投資はすべて終えることができました。寺のある集落の空き家対策で、一大コミュニティーを建設する予定です。

- ・地元密着型のお寺で、年配の檀家さんも多いので、今のところは SNS やネットの活用は考えていないが、代替わりの世代に向けての情報発信は必要になってくるだろうと思っていますが、マンパワー不足で技術に追い付いていない感じです。感染症対策を機に、いろいろなことを検討中です。
- ・現行の年中行事等を檀信徒と共にやる（人数制限等制約はあるが）こと、やっていることはやめたり、中止をしないこと、を肝に銘じている。どのような人に寺院が支えられているかを見直し、その人々に感謝し、その方々と共に「集まり」「顔を合わせ」「言葉を掛け合い」「勤行」「供養」することが大切であることを痛感しています。周辺のご寺院がひっそりと鎮まっている（活気がみられない）ので、なおさらそのように思うのかもしれない。
- ・以前に戻そうと言うよりも、理想は別にして、檀信徒や地域の個々人と日々関わり方を深くする様に、寺族とも共有している。
- ・檀信徒会の役員が極めて高齢化しているが、コロナによる活動中断をきっかけに役員の若返りを図りたい。

◇今後への懸念

- ・葬儀の規模の縮小や会葬者数減はコロナ収束後も持続すると思います。
- ・仏事をしなくなる家が増えて寺院維持が困難となり、必要と感じている人がイザ聴きに行こうと思いついた時に、そのような場所（寺院）がなくなるのではないかと危惧しています。
- ・10 年ほど前に比べると寺院収入は概ね 2 割程度減少しています。コロナによるいっそうの格差の拡大、乏しい社会保障制度に要因があると思いますが、高齢者の貧困の増加を感じます。葬儀や年回法要をつとめることが当たり前ではなくなりつつあります。
- ・当寺は地域的にも過疎地域(限界集落)という事で、コロナ以前から元々「寺離れ・門徒の減少・門徒の都会への流出等」の兆候がありましたが…「感染防止」「自粛」という大義名分の元、これらが加速化しているかと思っています。そもそも、落語やコンサート、定期的な聞法会などは講師御礼等の観点から「経済的に比較的余裕がある寺院」が開催できるものであって、当寺規模の小さな田舎寺院では「本山負担金・伽藍維持・住職給与」だけで精一杯の現状であります。当寺は専業で上記三点がぎりぎり賄えるだけ…まだ有り難い環境だと思います。最優先は伽藍法儀の維持。将来的には本山負担金や住職給与までは難しくなるかと危惧致します。伽藍維持さえ難しくなると…法人解散も視野に入れていかねばならない現状に不安が付きません。門徒が一件でもいる以上…「来年からお寺をやめます(解散)」とは中々いえないですが…。
- ・簡素化が今後も加速するように思います。お布施が減少する中、お寺の建物の維持が今後ご寄付を募ることが大変難しいので、どうして行くかが課題です。
- ・1) 社会への関係性が薄れていく（孤独感）、2) 寺院、檀信徒共に少子高齢化、3) 寺院継続可能か不安、4) 長く鬱状態化、5) 以上全てがネガティブな心境
- ・新型コロナウイルスによって、葬儀の簡素化や直葬(火葬前の短時間経)等が多くなり葬儀の考え方や葬儀の必要性の有無、お墓から集合墓地(共同墓地)への移動等が多くなり寺離れが進む可能性が多くなってきており、寺や僧侶の必要性の在り方も考え始めている檀信徒が見受けられる現実が心配です。

◇宗門・本山について

- ・本山の末寺支援が足りない。

- ・活動を模索している寺院とそうでない寺院との格差が開いていると思う。zoom ひとつとっても、なんかやで実施しない方たちに不安を覚える。この状態はまだまだ長期化しそうである一方、未だに宗派などからはコロナに対応する方針が公式にないことに不安と苛立ちを覚える。
- ・これで得られたデータを、是非各宗派宗務所へ送付し、地域の現状は今こういう状況にあるとご教示いただきたいです。中央はあまりにも地方の声を無視して行財政改革を進め、地方を切り捨てようとしています。

◇その他

- ・感染症への恐怖や不安を和らげるように、偏見や差別をしないように促している。
- ・このようにスマホやPCでアンケートが出来るお寺よりも、ネット環境が無かったり使えないご寺院がご苦労されていると聞きます。そのような方の声にも耳を傾けて頂きたいです。
- ・根源的には過疎化が遠因にもなっているのに、目先・小手先を変えても？
- ・本来、副住職と言う役職は無いはずです。ごく一部の方がその肩書の結果、悪い方向に進む方がいます。
- ・今までどおり、お寺の活動をエネルギッシュにしようと思う半面、それはしない方がいい、と考えて二の足を踏んでしまい、結果、檀信徒や地域の人々に対して何もできていないことに忸怩たる思いに駆られ、自責の念を感じている。
- ・中止の判断よりも、何とか開催できる方向に話を進めるべき。
- ・より気軽により雑多に仏教の裾野の部分が更に広がりますように。
- ・本当にコロナはこの国にとって大変なことだったのか、テレビやマスコミが騒いでいるほど大したこととはなかったという印象を全国へ布教に行かせてもらって感じました。私たちにとって何が大切で本当の事なのか、目の前にある情報に惑わされずに判断できる人間になることが必要なことだと思ひ知りました。そして一番感じたことは、日本人の宗教心を骨抜きにしてしまうようなことばかりが世間で取り上げられている時代背景を考えるようになりました。
- ・私たち僧侶自身もこの2年間様々な変化に襲われて来ました。世の理不尽や人の悲しみに寄り添うのが仕事とされていますので、死者数が増えれば増える程「気楽に過ごしている暇があれば法話の一つも考えたらどうか」と自責の念が湧きます。しかし、我々僧侶も人間です。心理学的にも「大きな変化」は文字通り「大変」であり、例えおめでたいことでもストレス要因であると言われています。寺院経営のストレスの下、「イイヒト」でいることを常に要求される僧侶であればこそその悩みも多く、忌憚なく気持ちを話せる場所が必要なのではと思います。外部関連団体が同席する会議などではどうしても立場上の「イイヒト」は崩せないのです。小規模から気楽な気持ち交換を再開すればこそレジリエンスに繋がるかと思いました。
- ・2021年12月1日現在、変異株オミクロンの流行が懸念されています。まだ分かっていないことも多いながら、感染力がこれまでの変異株よりも強いと考えられています。これまで日本の仏教寺院はしっかりとした感染対策を取るところが多く、寺院の行事によるクラスターがあったという報告は無かったように思います。しかし、オミクロン株の感染力は強く、空気感染が起きている疑いもあるとのことで、寺院でのクラスターが起こるのかもしれません。今後の動向を注視し、落ち着きを失わず冷静に対応していかなければと考えています。

- ・地方寺院を兼務しているが、法要を内勤めで案内しても変わらずお参りがあるので、今年は例年通りで行った。お斎は控えている。来年度から、子ども会も始めることになった。
- ・今までやらねばならないと思っていた事が、次々に中止となり、何だか空しくなってしまったのも事実。